

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	モダリティ別蛍光プローブ・イメージング法とがんモデルの選択及び最適化による薬物動態評価法の開発
代表機関名	国立研究開発法人国立がん研究センター
研究開発代表者名	安永 正浩
全研究開発期間	令和3年度 ～ 令和7年度（予定）

1. 研究開発成果（公開用）

中間報告書（下 URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000120239.pdf>

2. 総合評価

- ・優れている

【評価コメント】

モダリティに適合する蛍光プローブ開発は順調に進展し、低中分子モダリティ用蛍光プローブではプラットフォーム用蛍光色素を構築し、高分子モダリティ用蛍光プローブは active targeting のみを定量できるイメージング法を構築したことは評価できる。また、がんでの間質、CAF/マクロファージなどの影響を視野に入れ、PK 試験を通じて、がんモデルから実臨床への展開を考慮して研究を進めており、今後の実装化が期待できる。

課題間連携でのシーズ開発課題への対応も活かして、全身PD解析と組織PK/PD解析を進め、オンデマンドにシーズ対応できる薬物動態評価法の構築を引き続き進めること。

以上